

鈴っ子見守り通信



H24.1.10
第57号

鈴川小学校
父母と教師の会

PTAスローガン『「みんなで創り、みんなで守り、みんなで育てよう」
～できることを 全ては子供たちのために～』



あけましておめでとうございます



「公共心」を考える

新しい年を迎え、子供達も今年目標を決めているのではないのでしょうか。

さて、平成23年は東日本大震災が発生し、被災された方々はいつもと違う新年を迎えたことでしょう。

今年の年賀状の中では被災地あては、「あけましておめでとう」ではなく「がんばろう東北」などの言葉を使う方が多いそうです。被災地の復興はなかなか進まない状況で、被災地ではこのまま過去のこととして忘れられてしまうことが一番怖いと話していたと聞きます。

私達も同じ東北人として決して他人事と考えず、まだまだ辛い日々を送っている被災地のことを忘れずに、そして何らかの支援を続けていくことが大切ではないのでしょうか。

そういう意味では見守り活動も同じです。通り魔事件などが発生したときは関心が高まりますが、いつしか「他人事」、「過去のこと」になってしまい、忘れ去られてしまいます。子供達の安全を確保するためには、その記憶を忘れずに活動を継続していくことが大切だと考えます。

そして活動を継続していくことと同時に、活動してくれている見守りボランティアの方に、「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えることも大切です。その温かい「ありがとう」の言葉が見守りボランティアの方のエネルギーとなり、そのエネルギーが活動の「輪」を広げてくれるのです。

子供達が「ありがとう」ときちんといえるようにするためには、どうすればいいのでしょうか。

小学校のオアシス運動も大切ですが、やはり基本は家庭でのしつけや、大人の行動が手本となっていくのだと思います。

決して難しいことではないのです。ただ一言「ありがとう」でいいのです。

そんなことを考えさせてくれるCMが流れていましたので、今号は「公共心」について特集します。

あるCMから考えさせられること 「公共心」

最近、「魔法使いの少年」というテレビCMが流れるときがあります。このCMでは押しボタン式信号での出来事を通して、「公共心」について問いかけています。

実はこのCMの題材となった現実に体験された方は、山形県内の方なのです。もしかしたら、私達の身近で起きているのかもしれない。

ACジャパンが創立40周年を記念して「作文コンクール」を実施し、その優秀作品をCM化したものだそうです。

テーマは「公共心」というものを目の当たりにした感動的なできごと、また、「公共心」のなさに悲しくなったできごとについて募集し、1,738点の応募作品の中から選ばれたものだそうです。



「魔法を掛ける仕草」

「公共心」の意味を調べると“公共の利益のために尽くそうとする精神”とあり、似た意味の言葉に「モラル」があります。「公共心」というと堅苦しくなりますが、「お互いさま」の精神ではないかと思います。

日常生活の中では気持ちに余裕があれば、何気なく他人に譲ったりできることでも、つい自分中心の考えで他人に対し優しくできないときがあります。そんな時にこんな場面に遭遇すると、ふと我に振り返り反省したりするものです。

この作文を読んで想像するのは、『この子供の家庭では他人に親切にしてもらえば、親が自然に「ありがとう」とお礼を言っているのだろうな』ということです。

親の何気ない姿も、子供はしっかり見て学んでいるのです。

➤ 最優秀賞

「魔法を掛ける仕草」 山形県 佐川 孝

もう十年以上も前の事なのに、今でも頭の中に写真のワンカットのように一人の少年の姿が焼き付いている。

私は、仕事の帰り道、長時間の運転で疲れていた。町名も知らない、ある押しボタン式の信号が、「赤」になり停車した。間が悪いなと思いながら不機嫌に舌打ちした。私の車は前から三台目で、最初誰が、止めて渡っているのか分からなかった。横断歩道の半分程過ぎて、子供が急ぎ足で渡っているのが見えた。年、格好は小学校の二、三年ぐらいだろうか。信号が「赤」なのだから仕方なく私は、苛立つ目付きで見守っていた。

次の瞬間、私は、驚いて目を瞠ってしまった。お辞儀をしたのだ。その少年は、横断歩道を渡り切ると振り向いて停まっている左右の車に向かい、腰を曲げて丁寧なお辞儀をしてくれた。少年の気持ちが、「ありがとうございました」と伝わってくる仕草だった。

信号が「青」になり対向車の人の顔が見えた。誰もがにこやかに笑っていた。私の疲れて苛ついていた気持ちも、魔法に掛かったように晴れ晴れとした何とも快い清々しいものに変わっていた。顔も自然に微笑んでいた。そして、先程までの自分勝手な思いを恥じた。

運転の道々、その少年の姿が目には浮かび、知らず知らずの内に私の顔は、綻んでいた。

また、その時私の頭に思い浮かんだ事があった。それは、あの少年を育てた親御さんの事だった。きちんとした躰をして立派に育てている事に、深く感心して私は、胸の中で何度も頷いた。

今の世の中、カサカサと音がする程に、ささくれ立った空気が、蔓延している。

でも、家族の在り方一つで「公共心」は、自然に生まれてくるものだと思う。

それは、親が子を慈しみ、道徳を教え、叱る時は叱るという極当たり前の事で、日々の暮らしの中に、その答えは落ちていると思う。



見守り隊の腕章は、見守り活動をする際はもちろんですが、授業参観等の学校行事や、学年行事の時にも着けていただくようお願いいたします。

多くの方が腕章を着けることで、地域における監視の目が増えることにつながり、不審者の近寄りにくい地域作りにつながります。